

News Release

三浦印刷、版画集『蘭花譜』を発行

2005/05/30

三浦印刷株式会社（社長 三浦久司）は、文化事業の一環として版画集『蘭花譜』の再摺事業さいずりに携わってまいりました。その完成を記念しまして、6月7日（火）から12日（日）と16日（木）から19日（日）、東京・日本橋三越本店にて展示販売会『蘭花譜展』が開催されます。

● 『蘭花譜』とは



昭和21年刊行の『蘭花譜』

『蘭花譜』は、関西の実業家、加賀正太郎氏により昭和21年に刊行された洋蘭の図譜です。加賀氏自らが栽培した洋蘭の姿を後世に残すため、優良種104種を木版画やカラー図版等で再現、300部限定で刊行されました。特に木版画の制作には、膨大な時間と費用が費やされ、当時の優れた職人達の技術による素晴らしい出来映えは、高い評価を受けました。

『蘭花譜』の版木は長い間行方不明になっていましたが、近年12点分の版木の存在が判明しました。その事実は高く評価され、その版木を使用し当時と同様の木版画を摺り上げる事業が計画されました。

● 三浦印刷が『蘭花譜』再摺事業に参加した理由

当社では、カラー印刷の源流は江戸時代から続く多色摺り木版画(錦絵)であると考えてきました。多色摺り木版画は、その品質の高さや、量産されたという事実から、世界に類のないカラー印刷の源流といえます。しかしながらその木版画も、近年では職人の高齢化、後継者不足が深刻な問題となっています。当社は、この日本固有の伝統技術の発展に寄与するため、今回の『蘭花譜』再摺事業にスポンサーとして参加しました。

● 再摺『蘭花譜』の概要



再摺された平成の『蘭花譜』

加賀正太郎氏による昭和の『蘭花譜』のうち12点の木版画を、当時の版木を使用し100部限定で再摺しました。今回の再摺事業にあたり、現代の優れた職人に制作を依頼しました。

まず、人間国宝である紙漉き職人 九代目岩野市兵衛氏に版画用紙の製作を依頼しました。父である八代目は、加賀正太郎氏による昭和の『蘭花譜』の紙を漉いています。

摺りは、京都の摺師8名が担当しています。中でも上杉猛氏は、昭和の『蘭花譜』を手がけた上杉桂一郎氏の長男です。他にも昭和の『蘭花譜』の下絵を描いた日本画家 池田瑞月氏の子息、池田一路氏が木版画の監修をするなど、親子二代にわたり受け継がれた技術が、この『蘭花譜』にいかんなく発揮されています。

税込 577,500 円 (本体 550,000 円)

全 12 点 布製帙箱入り 額 1 枚・解説書付

摺法：手摺木版画、画寸法：約 45.2 × 30.0cm、マット寸法：60.6 × 45.4cm

用紙：越前生漉き奉書 (人間国宝 九代目岩野市兵衛漉元)

復刻版ではありません。当時の版木からの再摺版です。

● 「蘭花譜展」概要

平成に蘇った加賀正太郎の想い「蘭花譜展」

6 月 7 日(火)～12 日(日) 日本橋三越本店 本館 1 階中央ホール

(6 月 16 日(木)～19 日(日) 中央ホール中 2 階)

以上

このリリースに関するお問い合わせは・・・

三浦印刷株式会社 経営企画部 広報担当 菊地健史

Tel : 03-3632-1113 Fax : 03-3632-1981 e-mail : kikuchi@miura.com

ホームページアドレス : <http://www.miura.com/>